

かかりつけ歯科医機能推進に関するアンケート調査

目的

◇都民の歯と口腔の健康づくりを推進するため、地域におけるかかりつけ歯科医機能の推進状況に関する調査を行う。

実施方法

＜調査方法及び回収の状況＞

◇平成21年11月、社)東京都歯科医師会員8,473人を対象に調査用紙を配布し、平成22年1月15日を期限として回収した。(有効回答812人 回収率9.59%)

＜調査項目＞

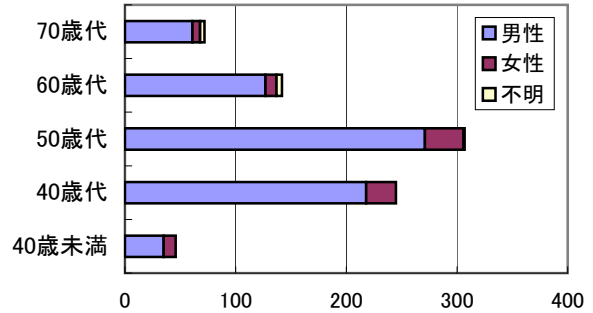
回答者の属性 性別 年代 医療機関の所在地

- 1 8020運動の周知
- 2 禁煙支援の取組
- 3 歯周病と糖尿病の関係の周知
- 4 口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防
- 5 介護予防における口腔機能の向上やサービスの周知
- 6 要介護高齢者等への対応
- 7 歯科からの食育
- 8 歯科からの子育て支援
- 9 フッ化物の応用

有効回答数

812

	男性	女性	不明	総計
40歳未満	35	11		46
40歳代	218	27		245
50歳代	271	35	1	307
60歳代	127	10	5	142
70歳代	61	7	4	72
総計	712	90	10	812



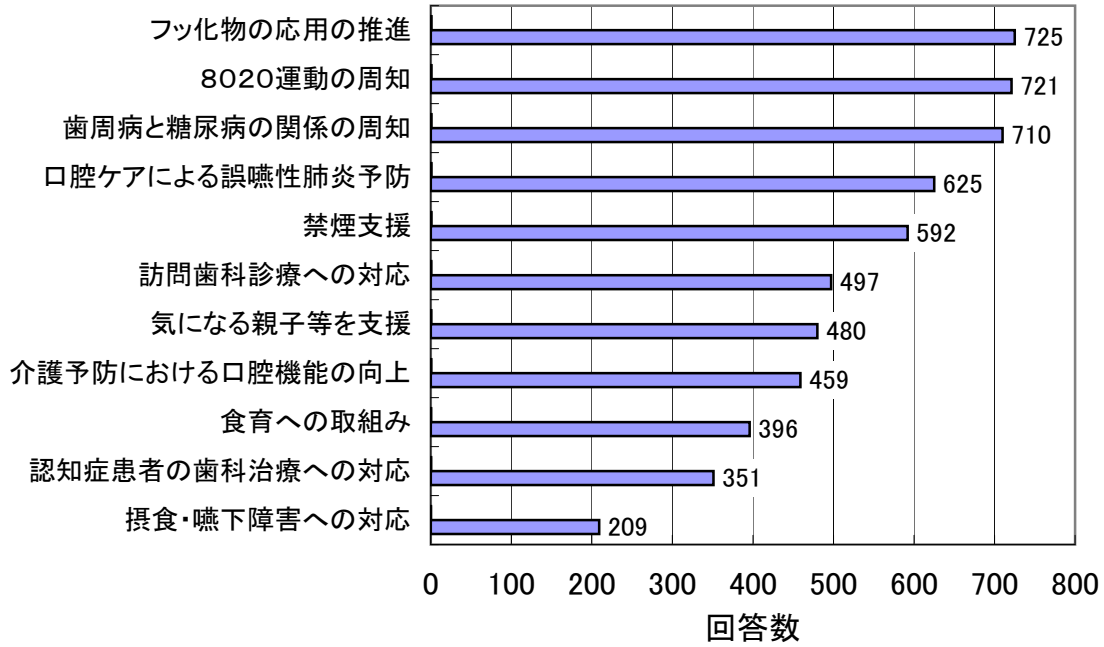
n=812	問1	
	8020運動の周知	
	度数	パーセント
40歳未満	39	84.8%
40歳代	207	84.5%
50歳代	281	91.5%
60歳代	129	90.8%
70歳代	65	90.3%
総計	721	88.8%

n=812	問2		問3		問4		問5	
	禁煙支援		歯周病と糖尿病の 関係の周知		口腔ケアによる誤 嚥性肺炎予防		介護予防における 口腔機能の向上	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
40歳未満	27	58.7%	38	82.6%	31	67.4%	22	47.8%
40歳代	168	68.6%	214	87.3%	176	71.8%	129	52.7%
50歳代	234	76.2%	276	89.9%	254	82.7%	184	59.9%
60歳代	111	78.2%	119	83.8%	110	77.5%	78	54.9%
70歳代	52	72.2%	63	87.5%	54	75.0%	46	63.9%
総計	592	72.9%	710	87.4%	625	77.0%	459	56.5%

n=812	問6					
	1 認知症患者の歯 科治療への対応		2 摂食・嚥下障害 への対応		3 訪問歯科診療へ の対応	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
40歳未満	19	41.3%	15	32.6%	21	45.7%
40歳代	91	37.1%	57	23.3%	143	58.4%
50歳代	149	48.5%	83	27.0%	209	68.1%
60歳代	65	45.8%	32	22.5%	89	62.7%
70歳代	27	37.5%	22	30.6%	35	48.6%
総計	351	43.2%	209	25.7%	497	61.2%

n=812	問7		問8		問9	
	食育への取組み		気になる親子等を 支援		フッ化物の応用を 推進	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
40歳未満	19	41.3%	27	58.7%	45	76.1%
40歳代	104	42.4%	149	60.8%	228	93.1%
50歳代	162	52.8%	185	60.3%	287	93.5%
60歳代	67	47.2%	76	53.5%	113	79.6%
70歳代	44	61.1%	43	59.7%	52	72.2%
総計	396	48.8%	480	59.1%	725	89.3%

かかりつけ歯科医としての取組状況 n=812



1 8020運動の周知

8020運動は、厚生労働省と日本歯科医師会の呼びかけで平成元年から進められている。今回の調査結果では、回答者の9割近くが周知しており、身近なかかりつけ歯科医からこの運動の定着が図られていることがうかがえる。

表1 8020運動を周知している

n=812		
	度数	パーセント
40歳未満	39	84.8%
40歳代	207	84.5%
50歳代	281	91.5%
60歳代	129	90.8%
70歳代	65	90.3%
総計	721	88.8%

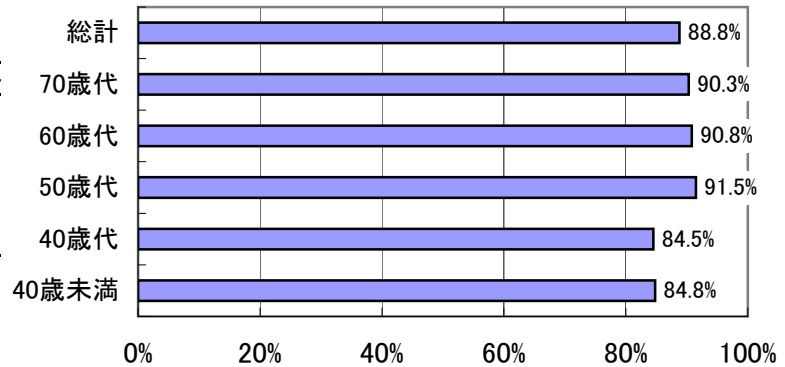
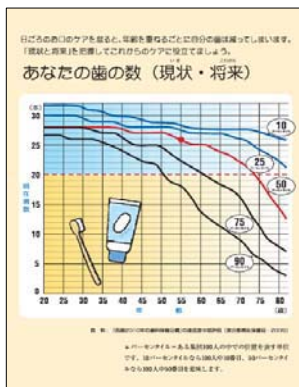
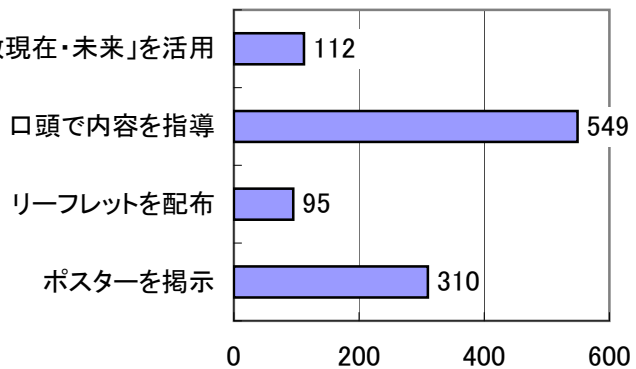


表2 8020運動の周知方法(複数回答)

n=812		
周知方法	度数	パーセント
ポスターを掲示	310	38.2%
リーフレットを配布	95	11.7%
口頭で内容を指導	549	67.6%
「あなたの歯の数現在・未来」を活用	112	13.8%



「あなたの歯の数現在・未来」を活用



「あなたの歯の数現在・将来(いまこれから)」

東京都歯科診療所調査結果にもとづき開発された健康教育用のツール。パーセンタイル表を用い、現在歯数から将来の歯数を予測することができる。

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryu/iryu_hoken/gjijiroku/shika_seijin/files/seijinnpanhu.pdf

2 禁煙支援の取組

歯周病は、細菌・宿主・環境因子などの複数のリスクファクターが重なって発症すると考えられている。中でも喫煙は歯周病を増悪させ、歯周病治療に対する反応性を低下させることから、歯周病の予防・治療には禁煙支援が必要である。禁煙支援は、口頭での指導に加え、ポスター・リーフレット等の活用、内科医師との連携、禁煙支援プログラムの実行等、様々な手段を効果的に組み合わせて行っていく必要がある。

表3 禁煙支援を行っている

n=812

	度数	パーセント
40歳未満	27	58.7%
40歳代	168	68.6%
50歳代	234	76.2%
60歳代	111	78.2%
70歳代	52	72.2%
総計	592	72.9%

禁煙支援を行っている

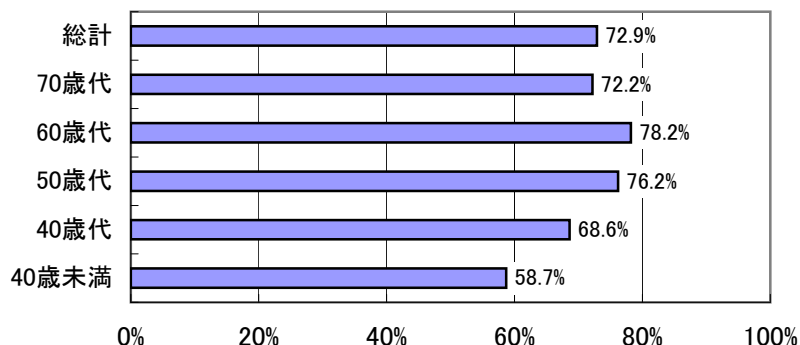
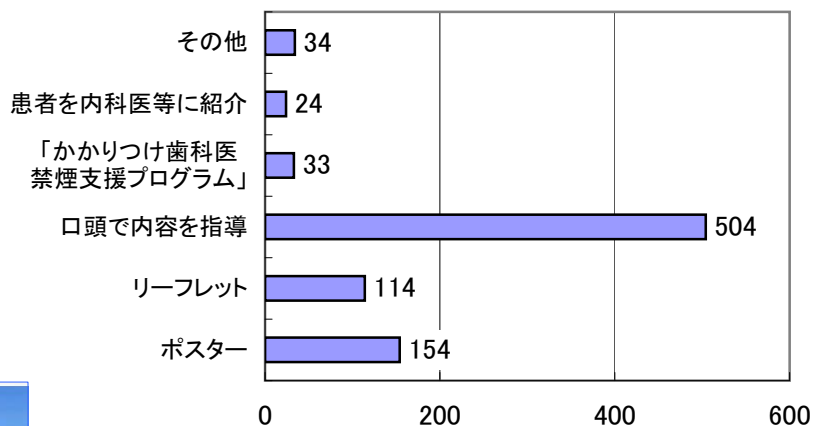


表4 禁煙支援の方法(複数回答)

n=812

周知方法	度数	パーセント
ポスター	154	19.0%
リーフレット	114	14.0%
口頭で内容を指導	504	62.1%
「かかりつけ歯科医禁煙支援プログラム」	33	4.1%
患者を内科医等に紹介	24	3.0%
その他	34	4.2%



「かかりつけ歯科医禁煙支援プログラム」

平成14年度東京都8020運動推進特別事業として開発された、かかりつけ歯科医による禁煙支援のプログラム。東京都歯科医師会が診療所を対象に、毎年研修会を開催している。

<http://www.tokyo-da.org/program/index.html>

3 歯周病と糖尿病の関係の周知

歯周病は、糖尿病患者の口腔において高頻度で見られ、糖尿病の第6番目の合併症といわれているが、まだまだあまり知られていない。また、最近の研究では、歯周病の治療が糖尿病に良好な影響をもたらす可能性のあることも報告されており、歯周病と糖尿病の関係をさらに周知することが必要である。

表5 歯周病と糖尿病の関係を周知している

n=812		
	度数	パーセント
40歳未満	38	82.6%
40歳代	214	87.3%
50歳代	276	89.9%
60歳代	119	83.8%
70歳代	63	87.5%
総計	710	87.4%

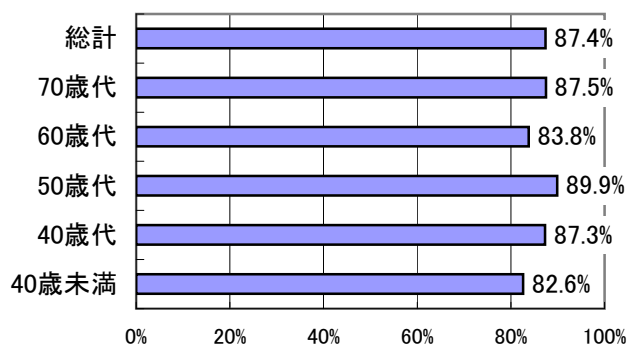
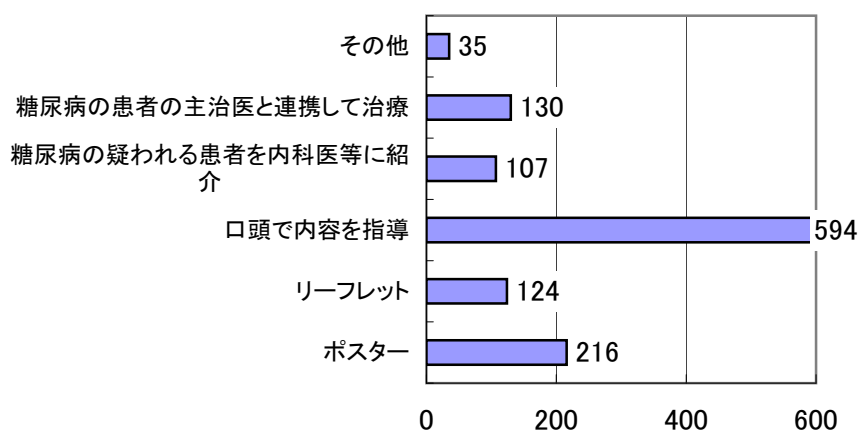


表6 周知の方法(複数回答)

n=812		
周知方法	度数	パーセント
ポスター	216	26.6%
リーフレット	124	15.3%
口頭で内容を指導	594	73.2%
糖尿病の疑われる患者を内科医等に紹介	107	13.2%
糖尿病の患者の主治医と連携して治療	130	16.0%
その他	35	4.3%



「お口のケアが全身をまもる」

平成21年度東京都8020運動推進特別事業によって作成された指導用リーフレット。糖尿病と歯周病の関連性がわかりやすく説明されている。

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo_hoken/okutinokeagazen/sinwomamoru/index.html

4 口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防

誤嚥性肺炎は、口腔内の細菌により、特に夜間の不顕性誤嚥で起こることが多いが、口腔ケアによってその予防が可能であることは、あまり知られていない。誤嚥性肺炎を予防するためには、口頭での指導に加え、リーフレット等の活用により、口腔ケアの有効性をさらに周知する必要がある。

表7 口腔ケアによる誤嚥性肺炎予防を周知している

n=812		
	度数	パーセント
40歳未満	31	67.4%
40歳代	176	71.8%
50歳代	254	82.7%
60歳代	110	77.5%
70歳代	54	75.0%
総計	625	77.0%

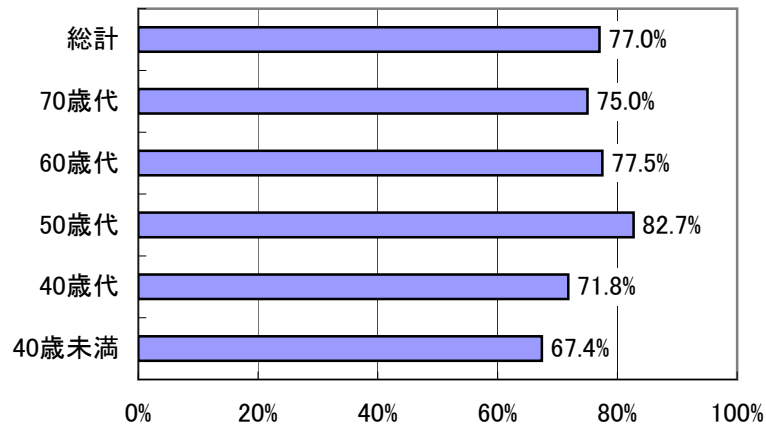
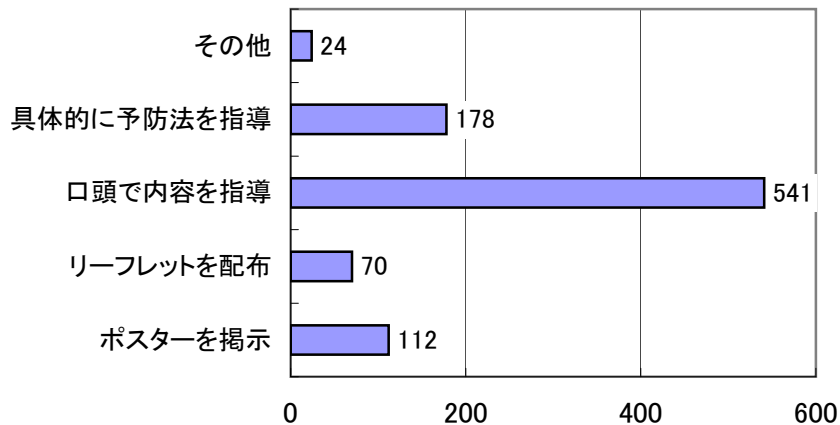


表8 口腔ケアによる誤嚥性肺炎予防の周知方法(複数回答)

n=812		
周知方法	度数	パーセント
ポスターを掲示	112	13.8%
リーフレットを配布	70	8.6%
口頭で内容を指導	541	66.6%
具体的に予防法を指導	178	21.9%
その他	24	3.0%



5 介護予防における口腔機能の向上やサービスの周知

口腔機能向上プログラムは、介護予防事業の一つとして平成18年4月から提供されているサービスである。今回の調査結果では、5割を超える歯科医師が口腔機能の向上の事業やサービスについて情報提供しており、年齢区分で比較すると70歳代の歯科医師が最も高い割合で周知を図っていると回答していた。

表9 介護予防における口腔機能の向上の事業やサービスについての周知

n=812		
	度数	パーセント
40歳未満	22	47.8%
40歳代	129	52.7%
50歳代	184	59.9%
60歳代	78	54.9%
70歳代	46	63.9%
総計	459	56.5%

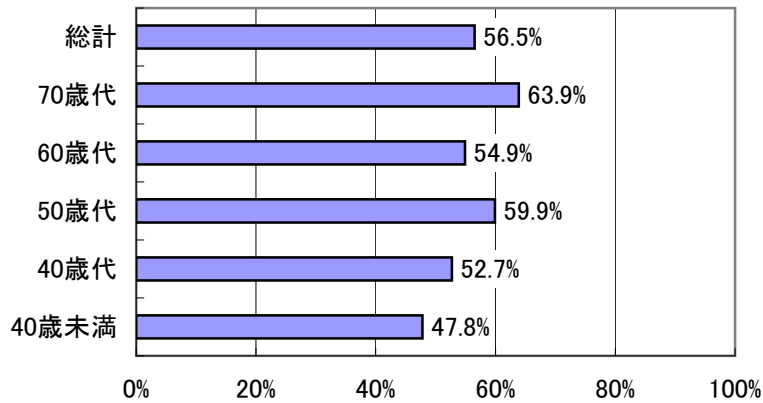
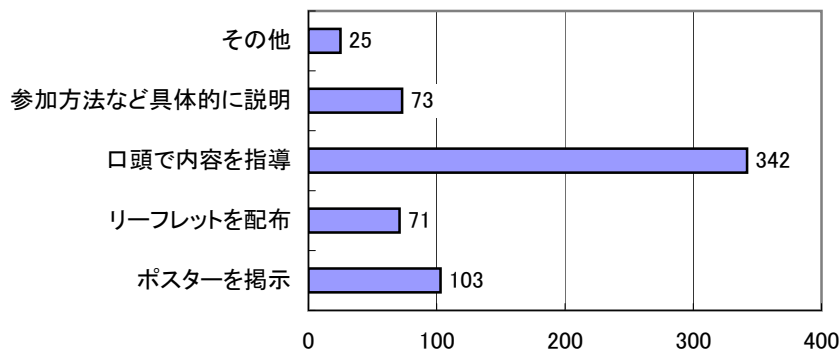


表10 介護予防における口腔機能の向上の事業やサービスの周知方法(複数回答)

n=812		
周知方法	度数	パーセント
ポスターを掲示	103	12.7%
リーフレットを配布	71	8.7%
口頭で内容を指導	342	42.1%
参加方法など具体的に説明	73	9.0%
その他	25	3.1%



6 要介護高齢者等への対応

8020運動の推進により、現在歯数の多い高齢者が増える一方で、摂食・嚥下障害や認知症患者への対応等、新たな歯科保健・医療の課題が生じている。今回の調査結果では、これらの新たな課題への対応が可能であるという回答は必ずしも高い割合ではなかった。特に在宅療養者の摂食・嚥下障害への対応について、摂食・嚥下障害及び訪問歯科診療の両方への対応が可能である歯科医師数から算出すると、約2割が可能という結果であった。

表11 認知症患者の歯科治療への対応が可能

	度数	パーセント
40歳未満	19	41.3%
40歳代	91	37.1%
50歳代	149	48.5%
60歳代	65	45.8%
70歳代	27	37.5%
総計	351	43.2%

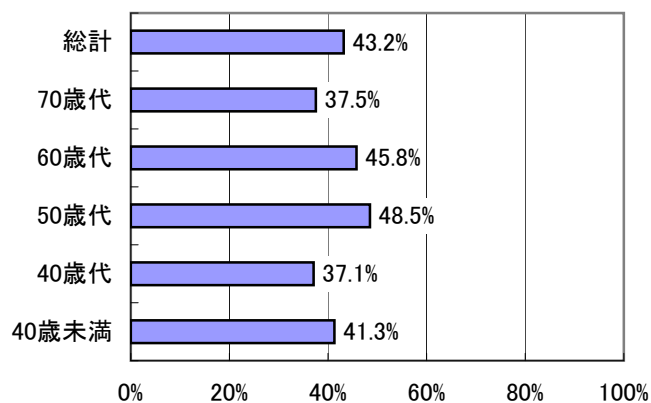


表12 摂食・嚥下障害への対応が可能

	度数	パーセント
40歳未満	15	32.6%
40歳代	57	23.3%
50歳代	83	27.0%
60歳代	32	22.5%
70歳代	22	30.6%
総計	209	25.7%

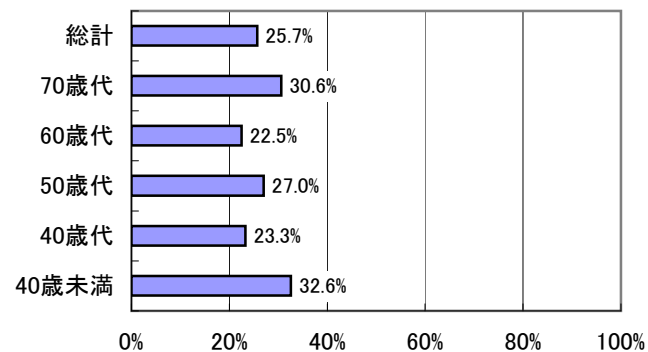


表13 訪問歯科診療への対応が可能

	度数	パーセント
40歳未満	21	45.7%
40歳代	143	58.4%
50歳代	209	68.1%
60歳代	89	62.7%
70歳代	35	48.6%
総計	497	61.2%

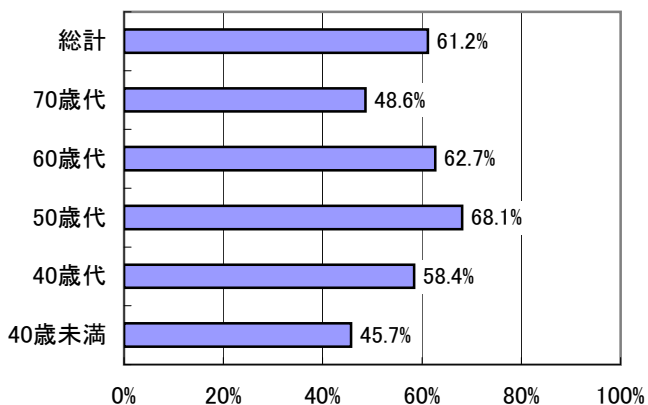


表14 要介護高齢者等への対応

	n=812		
	摂食・嚥下障害への対応	認知症	訪問歯科診療
40歳未満	32.6%	41.3%	45.7%
40歳代	23.3%	37.1%	58.4%
50歳代	27.0%	48.5%	68.1%
60歳代	22.5%	45.8%	62.7%
70歳代	30.6%	37.5%	48.6%
総計	25.7%	43.2%	61.2%

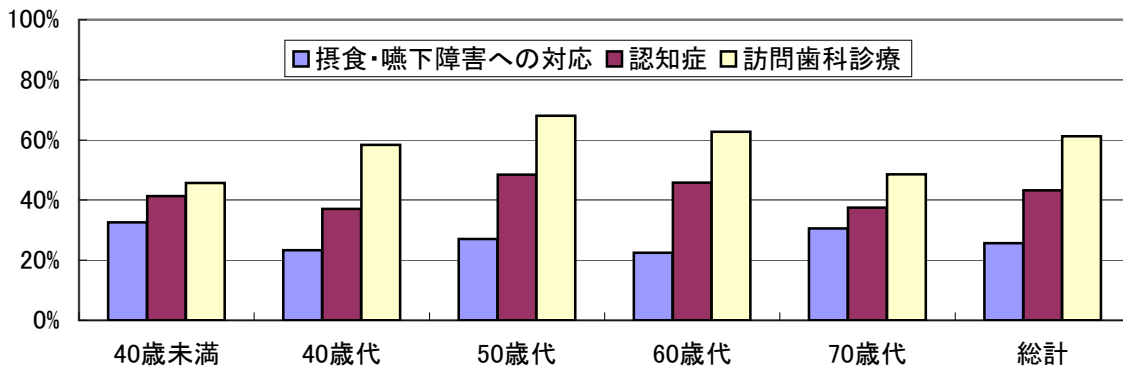
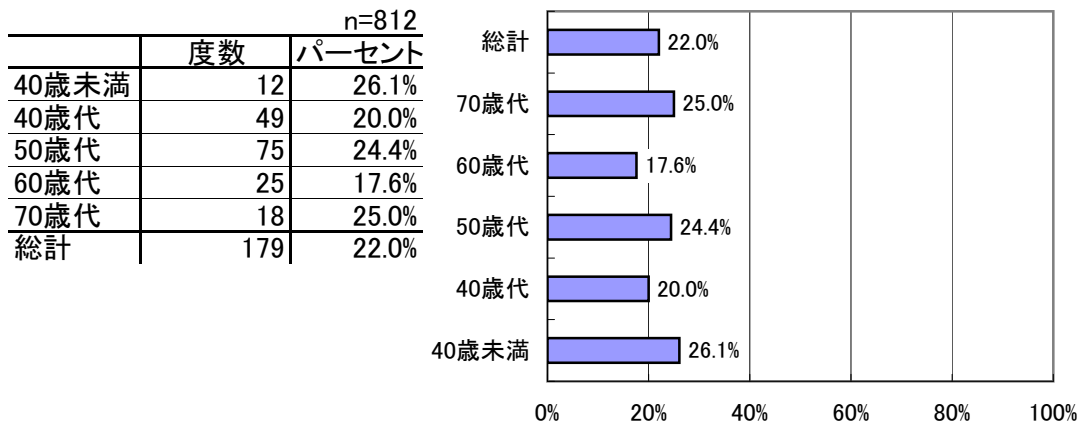


表15 在宅療養者の摂食・嚥下障害への対応が可能

※「摂食・嚥下障害」及び「訪問歯科診療」の両方への対応可能な歯科医師数より算出



都立心身障害者口腔保健センターにおける「摂食・嚥下評価専門研修」

在宅要介護高齢者等の摂食・嚥下障害に対応できる、医師・歯科医師の養成を目的に、平成20年度から専門研修が行われている。平成20・21年度の研修修了者は65名に上っている。

7 歯科からの食育

食育基本法が平成17年7月に施行されて以後、様々な領域から食育の推進が図られている。歯科では、歯科保健と食育に関する在り方検討会（平成21年7月）において、新たなスローガン「嚙ミング30」が提唱され、今回の調査結果では、「嚙ミング30」を周知している歯科医師の割合は8.1%であった。

表16 食育に取り組んでいる

n=812		
	度数	パーセント
40歳未満	19	41.3%
40歳代	104	42.4%
50歳代	162	52.8%
60歳代	67	47.2%
70歳代	44	61.1%
総計	396	48.8%

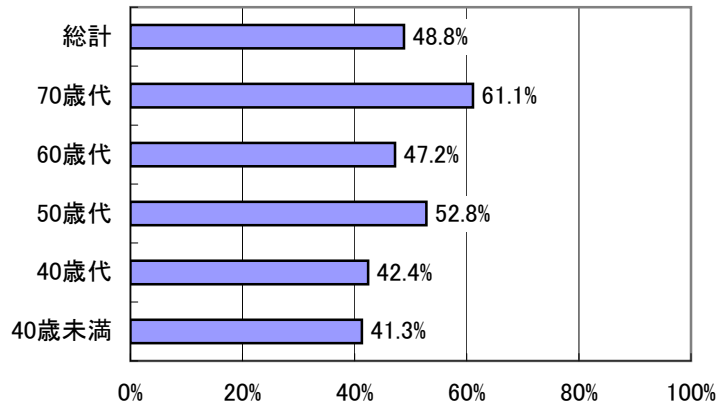
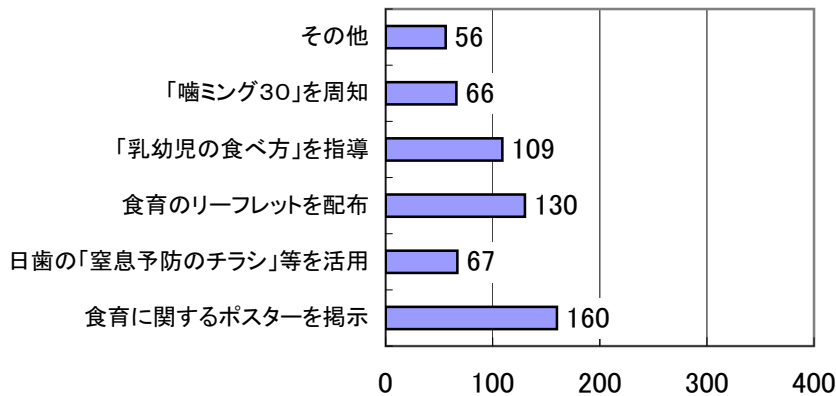


表17 歯科からの食育の方法

n=812		
周知方法	度数	パーセント
食育に関するポスターを掲示	160	19.7%
日歯の「窒息予防のチラシ」等を活用	67	8.3%
食育のリーフレットを配布	130	16.0%
「乳幼児の食べ方」を指導	109	13.4%
「嚙ミング30」を周知	66	8.1%
その他	56	6.9%



「歯と口の健康からはじめる食育サポートブック」

平成20年度東京都8020運動推進特別事業によって作成された指導用の冊子。都内の実践事例をライフステージや対象者別に紹介。本冊子は、国の「歯科保健と食育に関する在り方検討会報告書」において紹介された。

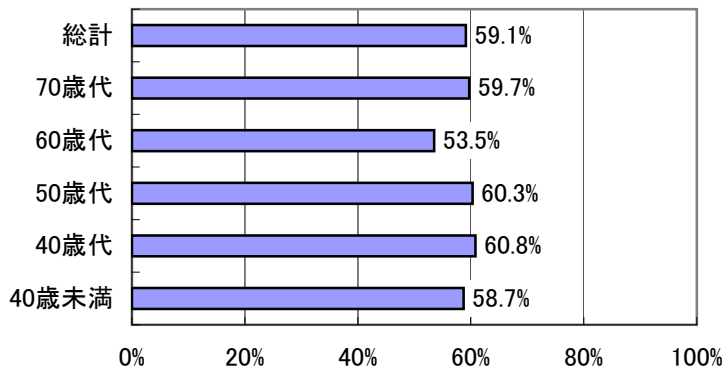
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo_hoken/a0301060_20090603095517743

8 歯科からの子育て支援

平成14年の被虐待児の口腔内の状態に関する調査が契機となり、歯科健診等も要支援家庭の発見の機会であると認識されるようになった。かかりつけ歯科医は、診療を通じて、子育てに対する親の不安をいち早く察知することにより、適切な支援につなぐ重要な役割を担っている。今回の調査結果では、いずれの年齢においても、およそ6割の歯科医師が「気になる親子」を支援しており、子供家庭支援センター等と連携・相談をしていると回答した歯科医師の割合は、12.6%であった。

表18 気になる親子等を支援している

n=812		
	度数	パーセント
40歳未満	27	58.7%
40歳代	149	60.8%
50歳代	185	60.3%
60歳代	76	53.5%
70歳代	43	59.7%
総計	480	59.1%



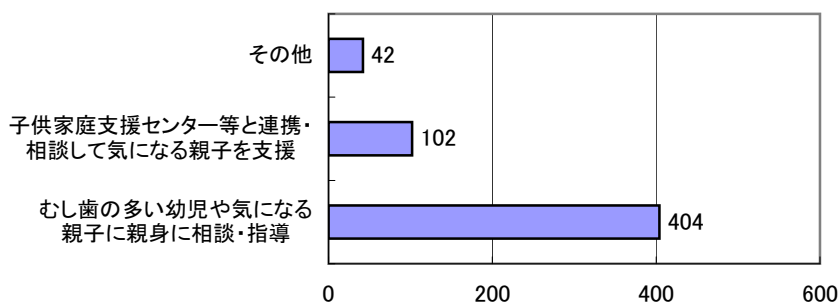
医療機関のための
子育て支援ハンドブック
「気になる親子に出会ったら」
東京都 平成18年3月

表19 気になる親子等に対する支援の方法

n=812		
周知方法	度数	パーセント
むし歯の多い幼児や気になる親子に親身に相談・指導	404	49.8%
子供家庭支援センター等と連携・相談して気になる親子を支援	102	12.6%
その他	42	5.2%



気になる親子への支援方法



9 フッ化物の応用

平成11年の日本歯科医学会「フッ化物応用についての総合的な見解」以後、フッ化物を応用したう蝕予防が広がっている。今回の調査結果では、およそ9割の歯科医師がフッ化物応用を推進していた。また、歯面塗布、歯磨剤の活用の指導、フッ化物洗口の指導の順で応用が進んでいることがうかがえた。

表20 フッ化物の応用を推進している

n=812		
	度数	パーセント
40歳未満	35	76.1%
40歳代	228	93.1%
50歳代	287	93.5%
60歳代	113	79.6%
70歳代	52	72.2%
総計	725	89.3%

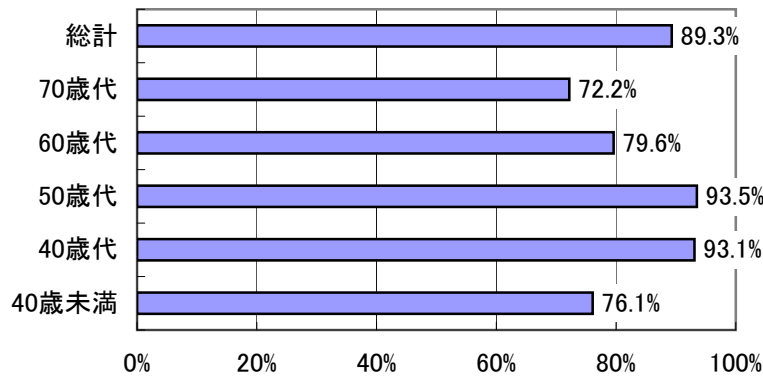
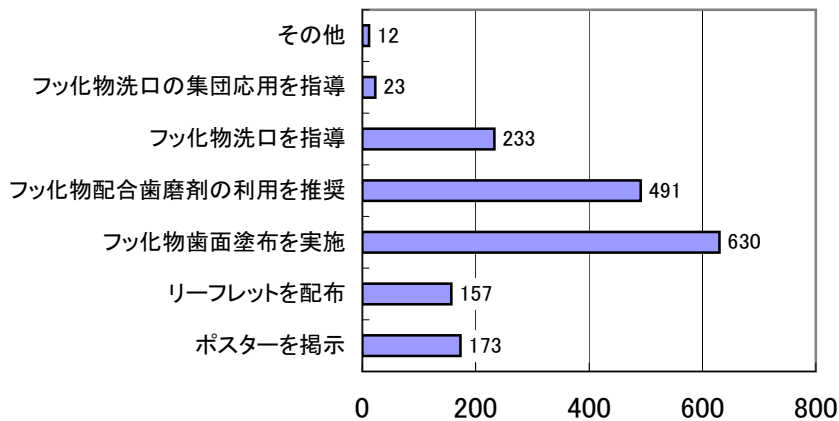


表21 推進しているフッ化物の応用方法

n=812		
周知方法	度数	パーセント
ポスターを掲示	173	21.3%
リーフレットを配布	157	19.3%
フッ化物歯面塗布を実施	630	77.6%
フッ化物配合歯磨剤の利用を推奨	491	60.5%
フッ化物洗口を指導	233	28.7%
フッ化物洗口の集団応用を指導	23	2.8%
その他	12	1.5%



(社)東京都歯科医師会 会員対象 かかりつけ歯科医機能推進のための調査 アンケート調査ご協力をお願い

- ◆東京都は「西暦2010年の歯科保健目標」を掲げて、歯の健康づくりを推進しています。この目標は、生涯にわたる歯と口腔の健康保持・増進を図り、「8020」の実現を目指すものです。
- ◆平成16年の中間評価の結果では、幼児や学童のむし歯の減少や8020達成者の増加、歯と口腔の健康づくりなどに着実な成果を得ていることがわかりました。
- ◆この度、歯科保健目標の最終年である西暦2010年(平成22年)を迎えるに当たり、目標の達成状況を調査し、新たな歯科保健目標について検討することとなりました。
- ◆本アンケート調査は、今後の東京都の施策の参考とさせていただくことを目的とし、貴院のかかりつけ歯科医としてのお取り組み状況等についてうかがうものです。調査結果は全体として集計し、ご迷惑をおかけすることはありません。なにとぞご理解のうえ、ご協力のほどお願いいたします。

東京都福祉保健局 (社)東京都歯科医師会

裏面の調査用紙にご回答のうえ、平成21年11月13日(金)までに Fax でご返送ください。

問合せ先: 福祉保健局医療政策部医療政策課

調査用紙中の
用語の説明

1. 8020運動

* 1 「あなたの歯の数 現在・未来」 お口の健康手帳18・19ページに掲載

◇お口の健康手帳URL

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryoy/iryoy_hoken/okutinokenkoutetyou/files/okutinokenkoutetyou.pdf

2. 禁煙支援

* 2 「かかりつけ歯科医禁煙支援プログラム」

平成14年度東京都8020運動推進特別事業として作成された。東京都歯科医師会が毎年研修会を開催している。

7. 歯科からの食育

* 3 日本歯科医師会による「窒息予防のチラシ・ポスター」

歯科からのアプローチとして日本歯科医師会により作成された「窒息を起こしやすい食物、食べ方」及びその「予防法、対処法」などに関する解説用チラシ及び啓発用ポスター

◇窒息予防チラシ・ポスターURL

<http://www.jda.or.jp/about/chissoku.html#a1>

* 4 「乳幼児の食べ方」

歯科保健と食育の在り方に関する検討会報告書 : 歯科保健領域で推進される食育の中核は、「口」から摂取する食品に応じた咀嚼と嚥下を行う「食べ方」にある。(中略)小児期は、食べる器官である歯・口の健康づくりを基にした、「のみ方、噛み方、味わい方」などの「食べ方」の機能発達面から(中略)支援していくことが必要である。

* 5 「嚙ミング30(カミングサンマル)」

歯科保健と食育の在り方に関する検討会報告書 : 地域における食育を推進するための一助として、より健康な生活を目指すという観点から、ひとくち30回以上噛むことを目標として、「嚙ミング30(カミングサンマル)」というキャッチフレーズを作成

◇歯科保健と食育の在り方に関する検討会報告書「歯・口の健康と食育～嚙ミング30(カミングサンマル)を目指して～」URL

<http://www-bm.mhlw.go.jp/za/0721/a12/a12.html>

8. 歯科からの子育て支援

* 6 「気になる親子」

東京都福祉保健局 医療機関のための子育て支援ハンドブック「気になる親子に出会ったら」 : 現在のところ、明らかな虐待や、または疑いをもつような所見はないが、親子の様子で気になる点がある状態

◇医療機関のための子育て支援ハンドブック「気になる親子に出会ったら」URL

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/koho/ko_shien_handbook/index.html

かかりつけ歯科医機能推進のための調査 (社)東京都歯科医師会 会員対象
 該当するものに○もしくはご記入の上、お手数ですが **※月※日(※)**までに ご返送ください。
 送付先: 東京都福祉保健局医療政策部医療政策課

1. 8020運動 貴院では、8020運動を周知していますか *は裏面参照

- ① 周知していない ② 周知している ⇒ 下記のうち該当するものすべてに○をつけてください。
 (1) ポスターを掲示 (2) リーフレットを配布 (3) 口頭で内容を指導
 (4) 「あなたの歯の数現在・未来」*¹ を用い、患者の状態にあわせて指導

2. 禁煙支援 貴院では、患者の禁煙を支援していますか

- ① 支援していない ② 支援している ⇒ 下記のうち該当するものすべてに○をつけてください。
 (1) ポスターを掲示 (2) リーフレットを配布 (3) 口頭で内容を指導
 (4) 「かかりつけ歯科医禁煙支援プログラム」*² を実施 (5) 患者の禁煙支援のために内科医等に紹介
 (6) その他()

3. 歯周病と糖尿病の関係の周知 貴院では、このことについてどのように取り組んでいますか

- ① 取り組んでいない ② 取り組んでいる ⇒ 下記のうち該当するものすべてに○をつけてください。
 (1) ポスターを掲示 (2) リーフレットを配布 (3) 口頭で内容を指導
 (4) 糖尿病が疑われる患者を内科医等に紹介 (5) 糖尿病の患者の主治医と連携して治療
 (6) その他()

4. 口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防 貴院では、このことについて周知等を行っていますか

- ① 周知していない ② 周知している ⇒ 下記のうち該当するものすべてに○をつけてください。
 (1) ポスターを掲示 (2) リーフレットを配布 (3) 口頭で内容を指導
 (4) 具体的に予防法を指導 (5) その他()

5. 介護予防における口腔機能向上の事業やサービスの周知 貴院では、このことについて周知等を行っていますか

- ① 周知していない ② 周知している ⇒ 下記のうち該当するものすべてに○をつけてください。
 (1) ポスターを掲示 (2) リーフレットを配布 (3) 口頭で内容を指導
 (4) 参加方法など具体的に説明 (5) その他()

6. 貴院では下記の要請に対応しますか 該当するものに○をつけてください

- | | | | |
|-------------|--------|---------|-------|
| 認知症患者の歯科治療 | ① 対応可能 | ② 対応が困難 | ③ その他 |
| 摂食・嚥下障害への対応 | ① 対応可能 | ② 対応が困難 | ③ その他 |
| 訪問歯科診療 | ① 対応可能 | ② 対応が困難 | ③ その他 |

7. 歯科からの食育 貴院では、このことについてどのように取り組んでいますか

- ① 取り組んでいない ② 取り組んでいる ⇒ 下記のうち該当するものすべてに○をつけてください。
 (1) 食育に関するポスターを掲示 (2) 日本歯科医師会による「窒息予防のチラシ・ポスター」*³ を活用
 (3) 食育のリーフレットを配布 (4) 「乳幼児の食べ方」*⁴ を指導
 (5) 「噛ミング30(カミングサンマル)」*⁵ を周知 (6) その他()

8. 歯科からの子育て支援 貴院では、「気になる親子」*⁶ 等を支援していますか

- ① 支援していない ② 支援している ⇒ 下記のうち該当するものすべてに○をつけてください。
 (1) むし歯の多い幼児や気になる親子に対し、親身に相談・指導
 (2) 気になる親子に関し、子供家庭支援センターや保健所・保健センター等の行政機関に相談・連絡
 (3) その他()

9. フッ化物の応用 貴院では、このことについてどのように取り組んでいますか

- ① 推進していない ② 推進している ⇒ 下記のうち該当するものすべてに○をつけてください。
 (1) ポスターを掲示 (2) リーフレットを配布
 (3) フッ化物歯面塗布を実施 (4) フッ化物配合歯磨剤の利用を推奨 (5) フッ化物洗口を指導
 (6) フッ化物洗口の集団応用を指導 (7) その他()

*** 回答者自身についてご記入ください**

- ①性別 男性・女性 ②年代 20・30・40・50・60・70歳以上
 ③医療機関の所在地 _____ 区・市・町・村 ④診療所の(管理者・それ以外)